

平成30年度事業報告

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

本県の畜産は、各畜種とも全国屈指の地位にあり、平成29年度の産出額が調査開始以来最高の1,670億円と、県農業産出額の62%を占めるに至るなど、裾野の広い関連産業を含めて、地域経済の活性化に重要な役割を果たしている。

一方、全国的な傾向として、家畜飼養者の高齢化等により、各畜種とも農家戸数の減少傾向が続いている。

肉用牛においては、平成28年以降（本県は平成29年（農林水産省畜産統計）、子取り用雌牛飼養頭数は増加基調に転じているものの、肉用子牛価格は高水準のまま推移している。また、枝肉価格は上昇傾向にあるものの、導入時の素牛価格が高値だったことから、肥育経営の資金繰りは依然厳しい状況となっている。

酪農については、本県を含めて都府県における生産基盤の縮小に歯止めがかからず、平成30年度の都府県生乳生産量は前年度対比で約1.5%の減少が見込まれている。

畜産物価格については、年度後半から総じて上昇傾向にあるものの、経営安定の観点からは、今後の輸入畜肉の動向が懸念される。

既に、平成30年度には、TPP11や日欧EPAの発効後に、畜肉等の輸入が急増するなど、我が国の畜産への影響が出始めている。

国においては、総合的なTPP等関連政策大綱に基づく各種の体質強化対策に加えて、協定発効に合わせて経営安定対策の充実等の措置が講じられた。

こうした中、当協会としては、来るべき環境変化にも耐えうる畜産経営の確立に向けて、年度当初に計画した事業に加え、肉用牛肥育経営安定対策として法制化となった肉用牛肥育経営安定交付金制度への円滑な移行に係る業務や、酪農経営における機械装置の導入と一体的な施設整備対策など、国が新たに創設した事業等にも取り組んだ。

加えて、来年10月に宮崎県で開催される第15回全日本ホルスタイン共進会に向けて、岩手県対策協議会の事務局として、本県の生産者及び出品牛がその能力を最大限に発揮することができるよう事前の現地調査を行った。

<重点事項>

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導
- 2 地域畜産をけん引する収益性の高い経営体の育成推進
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の的確な実施
- 4 家畜人工授精用凍結精液等の安定供給及び高度利用の推進
- 5 登録制度を活用した家畜の遺伝的能力の向上推進
- 6 自衛防疫意識の啓発と地域ぐるみのワクチン接種推進
- 7 高い精度で安定した生乳検査の実施
- 8 第15回全日本ホルスタイン共進会出品対策の推進

I 実施事業

1 継続事業1

畜産振興を目的として、経営の改善指導・生産技術の向上指導、経営体の育成啓発、家畜改良の推進指導、家畜衛生の向上指導及び畜産物の安全確保指導、調査及び情報提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施した。

<経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

(1) 畜産生産基盤育成強化事業

[県委託：5,298千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

ア 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施 延べ 170件

- ① 経営診断に基づく改善指導 11件
- ② 経営管理技術指導 38件
- ③ 生産技術指導 68件
- ④ フォローアップ指導 53件

(イ) 地域セミナーの開催 5回

イ 畜産経営情報の提供

ホームページに情報掲載（随時）

(2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,661千円]

畜産特別資金借入者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行った。

ア 融資機関への指導 22回

イ 経営改善計画作成、見直し及び達成に係る指導

(ア) 見直し指導 13戸、4回

(イ) 達成指導 46戸、53回

ウ 借入者の負債残高等経営改善進捗状況調査

8融資機関、87戸（前年度対比△1戸）

エ 借入者の経営改善計画の定期的実績点検調査

52戸（前年度対比△6戸）

※ 前年対比での減少 主に繰上償還によるもの

(3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地全協補助：13,236千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事

業を実施した。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

- ・ 経営診断指導（コンサルティング） 170戸、地域セミナー 5回ほか
- ・ 乳質改善指導 454戸（ミルクシステム診断に合わせて実施）
- ・ 乳用牛群検定推進に係る成績取りまとめ等 14検定組合
- ・ 研修会及び会議等への参加及び情報提供等 15回
- ・ いわたの酪肉繁殖性向上研修 1回

イ 地域畜産の活性化に資する事業

- ・ 県域及び地域の家畜共進会支援 40地域
- ・ 畜産関係情報の提供及び普及啓発 要覧作成、ホームページ更新（随時）

ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業

- ・ 競馬場（盛岡）における畜産フェア 畜産物加工品配布 400人分
- ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（いわて牛）授与 2回
- ・ 馬事イベントへの支援（副賞授与） 1回（流鏑馬大会）

（4）畜産・酪農生産力強化対策事業（家畜生産性向上対策）

[中畜請負：371千円、中畜委託：216千円]

家畜遺伝能力の最大限の発揮による生産性向上を図るため、生産性に係るデータの収集・分析と技術指導を実施した。

- ・ 酪農経営 4戸
- ・ 肉用牛経営（繁殖） 3戸

（5）ミルクシステム診断事業

[独自：7,716千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルクシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

- ・ ミルクシステム診断 449基（前年度対比+33基）
- ・ バルククーラー点検 391基（前年度対比+19基）

※ 前年度対比での増加 乳質事故防止意識の高まり

<担い手の強化・育成等に係る事業>

（6）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：7,596千円、預かり補助金75,843千円]

肉用牛の安定生産を確保するため、国の経営安定対策を補完する取組を支援した。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

- ① 中核的担い手育成増頭推進
繁殖雌牛増頭奨励金 7農協、272頭（前年度対比80.2%）
- ② 遺伝的多様性に配慮した改良基礎確保

繁殖雌牛導入等への奨励金 3農協、18頭

③ 優良繁殖雌牛導入支援

優良雌牛導入・農家貸付奨励金 7農協、117頭（対前年度比81.3%）

④ 肉用牛ヘルパー推進

肉用牛ヘルパー利用の推進等 5組合

⑤ 肉用牛振興推進指導

①から④の円滑実施のための指導等

イ 地域の特徴のある肉用牛振興対策

① 地方特定品種等の振興

- ・ 特徴ある牛肉生産等 1農協、13集団
- ・ 計画出荷対策 1農協、330頭

② 山振地域における肉用牛振興

- ・ 優良子牛適正出荷推進 1農協、2,224頭

③ 地域の特徴ある肉用牛生産推進指導

①から②の円滑実施のための指導等

(7) 養豚経営安定対策補完事業（災害緊急支援対策）

[機構補助：89千円、預かり補助金1,544千円]

平成29年度の大雪により施設等に被害のあった養豚経営に対して、補改修等に係る支援を行った。

対象 1戸

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(8) 畜産クラスター機械導入事業（窓口団体事務）

[中畜委託：4,772千円]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行った。

- ・ 対象 23の畜産クラスター協議会
 - ・ 要望額 565,300千円（機械259台）
 - ・ 配分額 390,983千円（機械167台）
 - ・ 配分率 69.2%
- } 金額は補助金ベース（機械価格の1/2）

主な導入機械

機 械 名	価 格	機 械 名	価 格
フォーレージハーベスター(自走式)	32,433千円	T M R ミキサー（設置式）	7,600千円
換 気 扇	15,750千円	コンビネーションベラー	6,865千円
ト ラ ク タ ー	10,850千円	カッティングロールベラー	5,700千円
細断型ホールクロップ収穫機	8,685千円	ホ イ ル ロ ー ダ ー	5,280千円
ミキサーフィーダー(自走式)	8,000千円	ロ ー ル ベ ー ラ ー	5,250千円

- ・ 機械導入状況調査（平成28年度及び平成29年度導入分）
8協議会 8台

(9) 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（労働負担軽減対策）

[中畜委託：1,348千円]

酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等を推進するため、機械装置の導入（リース）を支援した。

- ・ 楽酪応援会議設置 4農協（新岩手、岩手ふるさと、いわて平泉、岩中酪）
- ・ 取組主体（酪農経営） 12戸、導入機械台数 25台
- ・ 主な機械 自走式配餌車、搾乳ユニット搬送レーン、自動乳頭洗浄機、自動給餌機、ほ乳ロボット、バンスクレーパー、分娩監視装置、ミルクカー自動離脱装置
- ・ 補助金総額 44,505千円

(10) 酪農労働省力化推進施設等緊急整備対策事業（労働負担軽減対策）

[中畜委託：1,034千円]

酪農経営における労働負担軽減・省力化、飼養管理技術の高度化等を推進するため、機械装置の導入（リース）及び導入される機械装置と一体的な施設の整備を支援した。

- ・ 楽酪応援会議設置 2農協（新岩手、いわて平泉）
- ・ 取組主体（酪農経営） 2戸、導入機械台数 4台、補改修件数 3件
- ・ 導入機械 搾乳ロボット
- ・ 主な補改修 搾乳ロボット設置、バンスクレーパー設置、ほ乳ロボット設置
- ・ 補助金総額 95,932千円

(11) 畜産クラスター全国推進事業（改善効果調査）

[中畜委託：150千円]

畜産クラスターの効果を検証するため、事業取組経営体を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 1戸

(12) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜委託：720千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 9戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(13) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛能力向上事業）

[事業団委託44千円]

一般社団法人家畜改良事業団と牛群検定組合との間で行われる事務手続きに係る窓口業務を行った。

3検定組合

(14) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業

[県委託：510千円]

乳用牛群検定で得られたデータを有効活用するため、情報を収集・分析し、検定組合への提供等を行った。

巡回指導 14検定組合

(15) 馬の改良増殖推進事業

[地全協補助：1,524千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行った。

ア 優良種雄馬繁殖奨励

種付奨励金 種雄馬 4頭

種付頭数 39頭

交付額 360千円

イ 子馬生産奨励

生産奨励金 種雌馬 31頭

交付額 1,156千円

<家畜衛生の普及推進等に係る事業>

(16) 家畜防疫互助基金支援事業

[機構補助：3,081千円]

口蹄疫、豚コレラ等発生時の経済的損失を、生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行った。

ア 推進会議 1回

イ 情報提供 1回

ウ 周知巡回 9農協

エ 加入実績（括弧内は加入率）

乳用牛 533戸（57.0%）、33,418頭（79.8%）

肉用牛 2,719戸（59.6%）、69,860頭（77.0%）

豚 53戸（48.2%）、331,686頭（78.8%）

(17) 地域自衛防疫取組促進対策事業

[家畜衛生対策推進協議会補助：1,780千円]

地域の自衛防疫体制を強化するため、防疫演習を開催するとともに、慢性感染症清浄化対策を実施した。

- ア 検討会等の開催
検討会 2回、防疫演習 3回
- イ 慢性感染症対策
牛白血病 1戸

(18) 衛生体制強化基金事業

[中畜補助：109千円]

予防接種事業を効果的に推進するため、地域推進会議における助言指導を行った。

- ア 地域推進会議 3回
- イ アカバネ病予防啓発リーフレット作成配布 2,240部

(19) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜補助：724千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行った。

- ア 委員会等の開催
委員会 1回、講習会 1回
- イ 実態調査
68戸

(20) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：177千円]

馬伝染性疾患の発生を防止するため、計画的な予防接種（日本脳炎、破傷風及び馬インフルエンザ）を推進した。

日本脳炎 26頭、破傷風混合3種 30頭、馬インフルエンザ 29頭

(21) 馬伝染性疾患防疫推進対策事業

[中畜補助：803千円]

馬インフルエンザ及び馬鼻肺炎の防疫対策として、農用馬等へのワクチン接種を推進した。

馬インフルエンザ 69頭、馬鼻肺炎 24頭

(22) 農場HACCP取組体制緊急強化事業

[中畜委託：504千円]

農場HACCPの取組を推進するため、講習会を開催するとともに、認証取得を目指す経営体への助言・指導を行った。

- ア 推進会議 2回
- イ 講習会 1回

ウ 認証取得助言・指導 1経営体3回

(23) 牛疾病検査円滑化推進対策事業

[農水省補助：1,977千円、預かり補助金21,175千円]

死亡牛の適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行った。

48か月齢以上の死亡牛 2,429頭

<技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

(24) 家畜共進会開催事業

[県補助：1,250千円、独自：1,281千円]

県内畜産農家の家畜改良意識の向上と相互研鑽の場を提供するため、岩手県畜産共進会として、全県を範囲とする畜種別の共進会を開催した。

部 門	期日	出品頭数	会 場
黒 毛 和 種	9月26日	73頭	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	9月27日	67頭	同上
日 本 短 角 種	9月28日	36頭	同上
馬	9月14日	7頭	馬っこパーク・いわて
肉牛（黒毛和種）	10月20日	84頭	株式会社いわちく

<畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

(25) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,380千円]

畜産農家及び畜産関係機関・団体に、畜産経営に関する有用な情報を提供するため、会報「岩手の畜産」を発行した。

年6回奇数月発行 1回当たり発行部数 1,300部

(26) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[畜産近代化リース協会委託：1,399千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行った。

調査物件数 103件、リース事業周知 14回

(27) 公庫資金活用推進事業（地域農業支援）

[公庫委託：98千円]

畜産経営の改善に資するため、会議等において、公庫資金に係る情報を提供し、活用を推進した。

(28) 畜産技術指導促進事業

[独自：305千円]

研修会、会議、共進会等において、畜産技術情報の提供等を行った。
会議等 8回、指導等 6回

(29) 図書支援事業

[独自：411千円]

畜産に関する知識・技術の普及向上を図るため、公益社団法人中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等の書籍の斡旋配布を行った。

畜産コンサルタント 384部

一般書籍 32部

2 継続事業2

肉用牛肥育経営安定対策事業

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業

[機構補助：536,469千円、生産者等：179,802千円、手数料：15,105千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、肥育牛1頭当たり平均粗収益が平均生産費を下回った場合に、生産者の拠出（生産者積立金）と機構の補助により造成した基金から、粗収益と生産費との差額の9割を補填金として交付するなどの事務を行った。

なお、日本短角種を除く肉専用種について、独自に補填金単価を設定する地域算定方式を行った。

ア 肥育安定基金造成

品種区分	生産者積立金	機構補助	計
肉専用種	57,378千円	172,134千円	229,512千円
交雑種	100,711千円	302,133千円	402,844千円
乳用種	18,425千円	52,338千円	70,763千円
日本短角種	3,288千円	9,864千円	13,152千円
計	179,802千円	536,469千円	716,271千円

※ 日本短角種については、平成28年度から独自に生産者積立金及び補填金単価を設定する地域算定方式を行っている。

[基金造成単価]

品種区分	平成28年度	平成29年度	平成30年度	備考
肉専用種	40,000円	24,000円	24,000円	負担割合 生産者：1/4 機構：3/4
交雑種	100,000円	76,000円	52,000円	
乳用種	104,000円	88,000円	44,000円	
日本短角種	148,000円	48,000円	20,000円	

イ 補填金交付

品種区分	対象頭数	交付額
肉専用種	6,212頭 (- %)	357,070,100円 (- %)
交雑種	6,456頭 (72%)	347,638,900円 (73%)
乳用種	1,007頭 (63%)	26,925,200円 (43%)
日本短角種	61頭 (32%)	201,300円 (8%)
計	13,736頭 (127%)	731,835,500円 (137%)

※括弧内は前年度対比

[補填金発動状況 (金額は1頭当たり補填金額)]

(単位：円)

月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種	月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種
4	63,700	60,800	38,000	-	10	2,100	25,200	33,700	3,300
5	80,500	54,300	23,500	-	11	-	-	33,400	-
6	81,100	75,000	21,900	-	12	-	-	39,700	-
7	71,300	71,000	25,800	-	1	/			
8	100,400	50,800	25,400	-	2				
9	62,700	36,700	40,200	-	3				

ウ 事業推進

担当者会議開催 1回

(2) 肉用牛肥育経営安定交付金制度準備事業

[機構委託：1,331千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、肉用牛肥育経営安定特別対策事業から、肉用牛肥育経営安定交付金制度への円滑な移行に係る業務を実施した。

ア 業務内容

生産者への制度の周知及び肉用牛生産者要件審査申請書のとりまとめなどを行った。

イ 事務再委託先 (10団体)

全国農業協同組合連合会岩手県本部、一般社団法人岩手県配合飼料価格安定基金協会、新岩手農業協同組合、岩手中央農業協同組合、花巻農業協同組合、岩手ふるさと農業協同組合、岩手江刺農業協同組合、いわて平泉農業協同組合、大船渡市農業協同組合、岩手花平農業協同組合

(3) 肉用牛肥育経営安定交付金制度事務管理運営事業

[機構委託：1,884千円、生産者等：71,088千円、預かり補助金：3,072千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、毎月、肥育牛1頭当たりの標準的販売価格が標準的生産費を下回った場合に、差額の9割を交付金として交付するなどの事務を行った。

ア 肥育牛安定基金造成

品種区分	生産者負担金
肉専用種	19,944千円
交雑種	44,591千円
乳用種	5,719千円
日本短角種	834千円
計	71,088千円

[基金造成単価]

品種区分	平成30年度	備考
肉専用種	6,000円	負担割合 生産者のみ
交雑種	17,000円	
乳用種	19,000円	
日本短角種	6,000円	

イ 交付金交付

品種区分	対象頭数	交付額
肉専用種	0頭	0円
交雑種	0頭	0円
乳用種	81頭	4,095,562円
日本短角種	0頭	0円
計	81頭	※4,095,562円

※交付額には、農畜産業振興機構からの預かり金
3,072千円が含まれている。

[交付金発動状況（金額は1頭当たり交付金額）]

月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種
1	-	-	50,562.5円	-
2	-	-	60,769.4円	-
3	-	-	74,024.1円	-

(4) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業

[県等補助：0円]

日本短角種肥育経営安定特別対策事業補助金交付要綱の一部改正に伴い、日本短角種の積立金（負担金）単価が、肉専用種（日本短角種を除く）の積立金（負担金）単価と同額以下であったことから、事業の実施が無かった。

生産者積立金への補助

肉用牛肥育経営安定特別対策事業 平成30年4月1日～平成30年12月29日		肉用牛肥育経営安定交付金制度 平成30年12月30日～平成31年3月31日	
品種区分	生産者積立金	生産者積立金	
肉専用種	6,000円	6,000円	
日本短角種	5,000円	6,000円	

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業

[農水省補助：14,646千円、独自：205,004千円]

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業

[農水省補助：14,646千円]

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進した。

ア ヨーネ病防疫推進

自主とう汰奨励金 9戸（前年度対比90%）24頭（前年度対比53.3%）

イ 伝染病の発生・流行防止対策

アカバネ病予防接種 45,646頭（前年度対比105.3%）

ウ 牛白血病対策

清浄化推進農場抗体検査 11戸51頭

エ 牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

講習会開催 14回

自主とう汰奨励金 5戸8頭（前年度対比72.7%）

ワクチン接種 4戸442頭（前年度対比82.9%）

オ 地域慢性疾病対策

1団体実施（対象：蹄病対策）

(2) 家畜自衛防疫推進・支援事業

[独自：205,004千円]

ア 予防接種推進事業

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進した。

ワクチンの種類	頭数（前年度対比）
牛5種混合（生）	5,566頭（88.5%）
牛5種混合（不活化）	6,142頭（54.3%）
牛5種混合（生）+ヘモフィルス	17,744頭（100.0%）
牛6種混合（生・不活化）	7,029頭（176.1%）
牛6種混合（生）	2,557頭（287.0%）
牛ヘモフィルス	4,445頭（97.6%）
豚丹毒（生）	80,079頭（90.8%）
豚丹毒（不活化）	43,400頭（120.1%）

イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な防疫活動に要する経費に補助を行った。

対象疾病	件数	補助金額
ヨーネ病	30件（61.2%）	1,520千円（66.2%）
牛ウイルス性下痢・粘膜病	6件（50.0%）	1,097千円（70.8%）
牛サルモネラ症	2件（- %）	762千円（- %）
合計	38件	3,379千円

※ 括弧内は前年度対比

II その他事業

1 その他事業1

家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：80,952千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて、家畜人工授精用凍結精液等の供給を行った。(括弧内は前年度対比)

(1) 凍結精液等の供給

ア 凍結精液 109,183本 (101.8%)

内訳：肉用牛 69,336本 (103.8%)、乳用牛 39,847本 (98.6%)

イ 受精卵 469個 (70.8%)

内訳：肉用牛 413個 (69.4%)、乳用牛 56個 (83.6%)

ウ 液体窒素 53,707kg (99.4%)

(2) 経営効果の高い精液の利用推進

家畜人工授精担当者の知識・技術の研鑽と農家への助言・指導力の向上等を目的として、会議等を開催した。

ア 県外視察研修 1回

イ 家畜人工授精担当者会議 1回

ウ 種雄牛情報提供会議 1回

(3) 供給精液の受胎状況調査

授精技術の検証及び受胎率の向上等を目的として、供給精液の受胎状況調査を行った。

2 その他事業2

家畜登録事業

[独自：42,461千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進した。(括弧内は前年度対比)

(1) 家畜登録等の件数

ア 乳用牛 9,518件 (104.2%)

内訳：血統登録 5,675件、牛群審査 1,116件、牛群検定成績証明 762件、移動・その他 1,965件

イ 豚 3,025件 (83.1%)

内訳：種豚登録 720件、子豚登記 2,015件、移動その他 284件、農場認定 6件

(2) 登録関係研修会等への参加

研修会等への参加により、登録関係実務能力の向上を図った。

・ 平成30年度東北地区登録委員研修会 (ホルスタイン種)

- ・ 平成30年度東日本地区種豚登録講習会
- ・ 冬期登録事務担当者会議（ホルスタイン種）

3 その他事業3

生乳検査事業

[独自：115,349千円]

東北地域の農業協同組合等からの委託又は依頼を受けて、生乳取引等に係る生乳検査を実施した。（括弧内は前年度対比）

(1) 検査実績

- ア 生乳取引関係 525,593,176kg (98.7%)
- イ 牛群検定関係 515,525件 (98.3%)
- ウ 依頼試料乳
 - (ア) 成分及び体細胞数検査 30,102件 (98.4%)
 - (イ) 細菌数検査 14,699件 (97.1%)

(2) 検査項目

- ア 成分
 - 脂肪率、蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素
- イ 体細胞数
- ウ 細菌数

4 その他事業4

(1) 研修事業

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と協会における業務遂行能力の向上を図った。

ア 職員技術研修事業

[独自：730千円]

中央畜産技術研修会等への派遣及び独自職員研修会 17回

イ 北海道・東北ブロック畜産協会職員研修事業

[独自：135千円]

宮城県において開催 参加者数 37名

(2) 畜産理解促進事業

競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進し、併せて、地方競馬の活性化を支援した。

ア 岩手競馬支援特別対策事業

[独自：311千円]

(ア) 冠レースでの会長賞授与

第18回ハーベストカップ（10月・盛岡）及び第17回寒菊賞（12月・水沢）

- （イ）ファン感謝デーにおける県産畜産物加工品配布
400個配布（10月・盛岡）

イ 畜産関係団体調整機能強化事業

[中畜委託：300千円]

- （ア）冠レースでの会長賞授与
第44回すずらん賞（7月・盛岡）及び第36回ビギナーズカップ（9月・水沢）
- （イ）畜産フェアにおける県産畜産物加工品配布
400個配布（9月・水沢）

（3）馬事文化地域連携体制構築事業

[県委託：8,817千円]

馬事文化を観光資源として、国内外に情報発信することにより、インバウンドの誘致を促進するとともに、岩手県馬事文化地域連携連絡協議会の活動により、馬事関係者の広域連携体制の構築を推進した。

ア 岩手県馬事文化地域連携連絡協議会運営

協議会構成員 11市町、12団体

協議会開催 2回（平成30年6月、平成31年2月）

イ 情報発信

ホームページ「HORSE LAND IWATE」

ウ シンポジウム開催

第2回いわて馬事文化シンポジウム（11月6日、滝沢市）

テーマ：「馬事文化の活用」

基調講演演題：「観光人類学からみる馬事文化－保存と活用に向けて－」

演者 東北福祉大学教育学部准教授 安藤直子氏

事例発表 2題

- ・ 馬事文化振興に係る人材育成と技術指導について
発表者：一般社団法人遠野市畜産振興公社場長代理 千葉祥一氏
 - ・ 馬事で地域を再生し、過去と未来を繋げる試み
発表者：一般社団法人三陸駒舎共同創設者・理事 黍原 豊氏
- エ 各種イベントでの馬の活用
- ・ 各地域でのイベントへのチャグチャグ馬コ派遣及び騎馬・馬車運行（6市町）
 - ・ JR盛岡駅での「岩手の馬パネル展」実施（平成31年3月1日～17日）

